

全国高等学校長協会 平成 22 年度教育課題研究協議会 <基調報告>

(平成 22 年度 教育課題検討委員会)

I 調査研究

1 研究協議主題

学校力の強化を目指して (パートV)

「これからの社会に求められる能力や資質を育成する視点から」

2 主題設定の理由

いま社会が大きく変化し、政治や経済だけでなく教育もグローバル化する中で、学習到達度評価 (PISA) や文部科学省の学力調査などの結果から学力向上や授業力向上が求められている。また、平成 25 年度から学習指導要領の本格実施に伴い、今後、「確かな学力」を評価する「観点別評価」や「高大接続テスト (仮称)」の導入について検討されている。

そこで、全国の高等学校の学校長にアンケート調査を行い、これからの社会に求められる能力や資質「生きる力」とは何か、特に、どのような能力や資質を育成すべきか。また、授業において「確かな学力」を身に付けさせるためにどのような授業改善を行い、どのように「学校力の強化」を図るかについて分析・考察することにした。一方、各都道府県から「生きる力」を育成する特色ある取組や「学校力の強化」を目指した特色ある取組に関する実践事例を収集し、「学校力の強化」を目指した学校経営の改善に資することをねらいとした。

3 研究方法

① アンケート調査による分析・考察

全国 47 都道府県の高等学校の学校長を対象に、全国高等学校長協会、及び各都道府県 (「各県」と呼ぶ。) の教育課題検討委員代表校長をとおして、各高等学校にアンケート調査を行った。その結果、全国の高等学校から 2,804 校から回答を得た。内訳は普通科が 1,926 校、専門学科等 (普通科以外) が 878 校である。また、高等学校のうち 4 年制大学進学率が 60%以上を、仮に「進学重点校」(713 校) とし、40%未満を「進路多様校」(1,489 校) として分析・考察した。

なお、集計に当たり、各高等学校の回答結果に対し、学科や進学率、就職率、あるいは設問及び項目ごとにクロス集計して、さらに分析・考察ができるようにした。

② 実践事例による分析・考察

各県から「生きる力」を育成する教育活動、「学校力の強化」を目指す学校づくりなど、特色のある実践事例を各県から 2 校程度ずつ収集する。

ア これからの社会に求められる能力や資質「生きる力」を育成している特色ある取組について、その成果と課題をまとめる。(「生きる力」を育成する特色ある教育活動)

イ これからの社会に求められる能力や資質「生きる力」を育成している「学校力の強化」の取組について、その成果と課題をまとめる。(「学校力の強化」を目指す特色ある学校づくり)

なお、各県の実践事例については、別途「実践事例集」として資料にまとめた。

4 調査項目

アンケート調査の設問の構成及び観点は、次のとおりである。

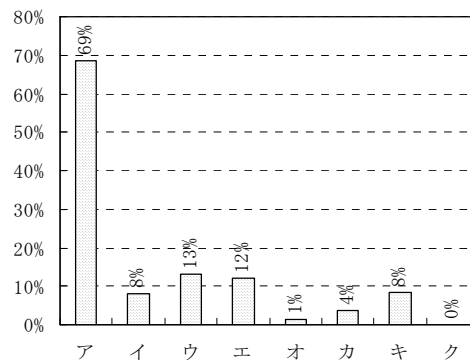
- ① フェイスシート : 設問 1. 学科 設問 2. 課程等 設問 3. 4 年制大学進学率 設問 4. 就職率
- ② 設問・項目 : 設問 5. これからの社会に求められる能力や資質
設問 6. これらを育成すべき高等学校としての取組
設問 7. 確かな学力を身に付けさせるための授業改善
設問 8. 「学校力の強化」のための学校経営

II 調査結果

1 あなたの学校の主な学科は何ですか。

(複数回答可)

- ア. 普通科
- イ. 農業
- ウ. 商業
- エ. 工業
- オ. 水産
- カ. 家庭
- キ. 総合学科
- ク. その他 ()



項目	学校数	割合
ア	1926	69%
イ	226	8%
ウ	368	13%
エ	342	12%
オ	42	1%
カ	105	4%
キ	238	8%
ク	0	0%

(全体の分析・考察)

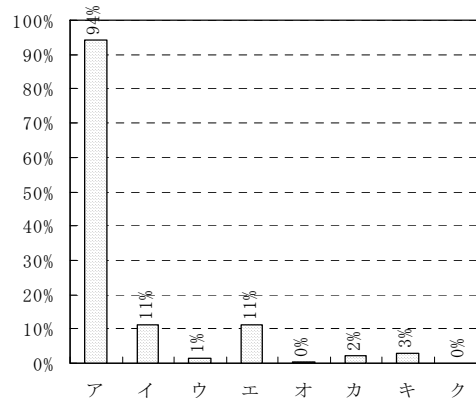
回答を得た2,804校の高等学校のうち、主な学科は(ア. 普通科)が約7割、(ウ. 商業)と(エ. 工業)が1割強、(イ. 農業) (キ. 総合学科)が1割弱である。

また、(ク. その他)の記述の内訳は、理数系46校、看護・福祉系46校、国際科24校、芸術・演劇19校、英語科18校、スポーツ系17校、情報科14校である。

2 あなたの学校の主な課程や特徴は何ですか。

(複数回答可)

- ア. 全日制
- イ. 定時制
- ウ. 三部制
- エ. 単位制
- オ. チャレンジ
- カ. 通信制
- キ. 中高一貫
- ク. その他 ()



項目	学校数	割合
ア	2645	94%
イ	315	11%
ウ	36	1%
エ	317	11%
オ	13	0%
カ	58	2%
キ	77	3%
ク	0	0%

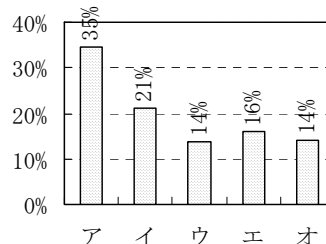
(全体の分析・考察)

主な課程や特徴として(ア. 全日制)94%、(エ. 単位制)11%、(イ. 定時制)11%である。

また、(ク. その他)の記述には、中高一貫校8校、職業学科併設、二部制、福祉・看護併設、エンカレッジ、スーパーサイエンスハイスクールなど、様々な特色ある形態が挙げられている。

3 昨年度卒業した生徒の進路状況で、4年制大学に進学した生徒の割合は何%ですか。(回答は1つ)

- ア. 20%未満
- イ. 20%～39%
- ウ. 40%～59%
- エ. 60%～79%
- オ. 80%以上



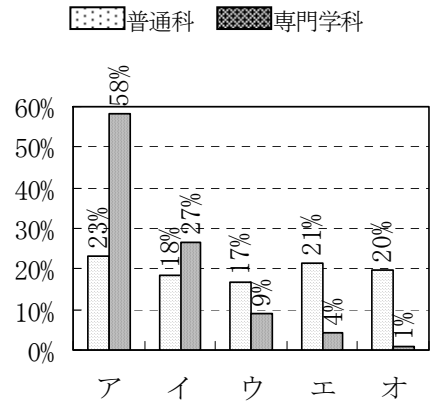
項目	学校数	割合
ア	973	35%
イ	588	21%
ウ	386	14%
エ	449	16%
オ	392	14%

(全体の分析・考察)

昨年度の4年制大学進学率が(ア. 20%未満)である学校は、全体の約3分の1である。さらに(イ. 20%～39%)を含めた40%未満である学校は全体の半数以上である。

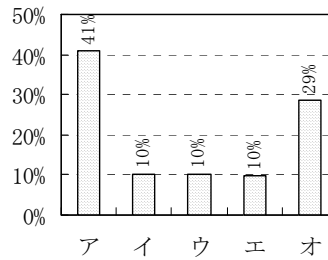
(普通科と専門学科との比較)

さらに、普通科と専門学科について4年制大学進学率を比べたところ、普通科ではどの項目も20%前後であるのに対し、専門学科では進学率が高くなると学校数の割合は減少している。このように、普通科では学校によって進学から就職まで多様な役割を担っているのに対し、専門学科では大学進学以外の進路を選択する生徒が多い傾向がある。このことは就職者の割合の結果からみれば明らかである。



4 また、就職者の割合は何%ですか。(回答は1つ)

- ア. 10%未満
- イ. 10%～19%
- ウ. 20%～29%
- エ. 30%～39%
- オ. 40%以上



ア	1144	41%
イ	282	10%
ウ	280	10%
エ	274	10%
オ	805	29%

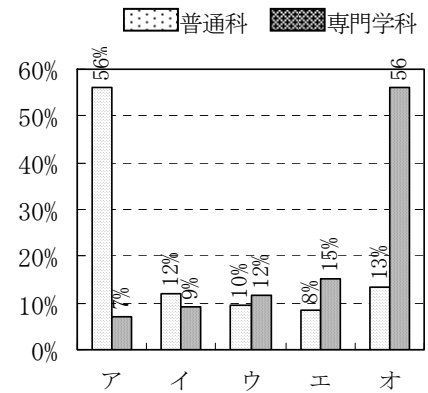
(全体の分析・考察)

昨年度の就職率が(ア. 10%未満)である学校は4割以上あり、一方で(オ. 40%以上)である学校も3割近くある。

二極化して見えるのは、普通科と専門学科との合算によるものである。

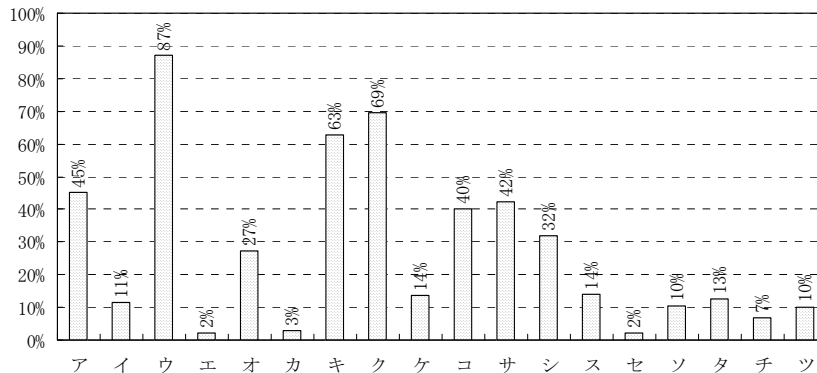
(普通科と専門学科との比較)

普通科では、就職率が(ア. 10%未満)である学校は半数以上であるのに対し、専門学科では就職率が(オ. 40%以上)である学校が半数以上ある。このことから、専門学科では生徒の卒業後の就職先を決定するという重要な役割を担う結果となっている。



5 これからの社会に求められる能力や資質のうち、特に重視すべきものは何ですか。（回答は5つ以内）

- ア. 高校の教科書程度の基礎基本（基礎基本）
- イ. 新聞やテレビ等から得られる情報を理解できる力（一般教養）
- ウ. 自分の考えを表現し、相手の話を理解できるコミュニケーション能力や表現力（表現力）
- エ. 音楽や美術等に親しみ、表現しようとする感性や芸術的素養（感性、芸術性）
- オ. 何事にも好奇心をもち、意欲的に取り組む姿勢（好奇心、意欲）
- カ. 文学や歴史等に親しみ、場面を想像し、文化を創造する力（想像力、創造力）
- キ. 自ら問題を発見し、考え、解決していく思考力や判断力（問題解決能力）
- ク. 社会のルールやきまりを守り、正しく行動できる道徳心や倫理観（道徳心、倫理観）
- ケ. 自らの健康を意識し、身体能力を高める力（健康、体力）
- コ. 困難を乗り越えようとする意志の強さ（根気強さ、精神力）
- サ. 自尊感情をもち、他人の気持ちを理解し、思いやりの心をもって行動できる姿勢（思いやりの心）
- シ. 何事にも積極的に挑戦し、目標に向かって取り組むバイタリテイ（向上心、行動力）
- ス. 豊かな人間関係を築き、集団を導いていくリーダーシップ（人間関係力、指導力）
- セ. 伝統文化や工芸等を受け継ぎ、より発展させようとする技能や姿勢（伝統文化理解、技術力）
- ソ. 諸外国の人々と交流を深め、異なる言葉や文化等を理解する力（異文化理解、語学力）
- タ. パソコン等の情報機器を活用し、情報を収集し、処理できる力（情報活用・処理能力）
- チ. 未知の経験や事象を数学的・科学的に分析し、論理的・合理的に考察する力（数学的・科学的な思考力）
- ツ. 環境や経済等、社会問題に関心をもち、自らの考えをもつ力（社会科学的な力）



ア	1263	45%
イ	318	11%
ウ	2442	87%
エ	65	2%
オ	768	27%
カ	85	3%
キ	1758	63%
ク	1947	69%
ケ	385	14%
コ	1130	40%
サ	1185	42%
シ	897	32%
ス	393	14%
セ	62	2%
ソ	294	10%
タ	351	13%
チ	192	7%
ツ	281	10%

① 全体の分析・考察

これからの社会に求められる能力や資質のうち、特に重視すべきものとして回答が多いのは、（ウ. コミュニケーション能力）（ク. 道徳心、倫理観）（キ. 問題解決能力）（ア. 基礎基本）の順になっている。

一方、回答数の少なかったのは（セ. 伝統文化理解、技術力）（エ. 感性、芸術性）（カ. 想像力、創造力）の順になっている。

② 設問5と他の項目との関連

設問5のア～ツのそれぞれの項目と他の設問の項目とのクロス集計した結果、関連の強いもの（全国の割合より5%以上高い項目）は以下のとおりである。

- ・（ア. 基礎基本）⇔進学率20%未満、就職率40%以上、設問6、7、8の基礎基本
- ・（イ. 一般教養）⇔：進学率20%未満、6の基礎基本、7の資格取得
- ・（エ. 感性）⇔普通科、進学率20%未満、6の教員の意識改革

- ・ (カ. 想像力、創造力) ⇔進学率 60%以上、5；感性、人間関係、6；言語活動、7；思考表現の評価、8；自主・自律、関係機関との連携、社会性・倫理性
- ・ (キ. 問題解決能力) ⇔7；思考表現の評価
- ・ (ク. 道徳心、倫理観) ⇔進学率 20%未満、8；規範意識
- ・ (ケ. 健康、体力) ⇔7；部活動等、8；部活動
- ・ (ス. 人間関係力) ⇔普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、5；部活動等、7；センター試験、外部模試、補習・補講、自主・自律
- ・ (セ. 伝統文化) ⇔工業、全日制、就職率 40%以上、6；興味・関心、体験活動、7；資格取得、外部模試、部活動等
- ・ (ソ. 異文化理解) ⇔普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5；社会科学、6；問題解決、言語活動、外国語、横断的学習、7；思考・表現、英検等、PISA、8；関係機関
- ・ (タ. 情報活用) ⇔進学率 20%未満、6；機器活用能力、7；資格取得、部活動等、8；資格取得、機器の活用
- ・ (チ. 論理的思考) ⇔普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5；リーダーシップ、問題解決、言語活動、外国語、理数重視、7；思考表現の評価、センター試験、外部模試、英検等、PISA、8；実験・実習、論文指導
- ・ (ツ. 社会的思考) ⇔進学率 80%以上、就職率 10%未満、5；異文化理解、6；横断的学習、7；外部模試、英検等、PISA、8；社会性・倫理観
- ・ 上記以外の (ウ. コミュニケーション能力) (オ. 意欲、好奇心) (コ. 根気強さ、精神力) (サ. 思いやり) (シ. 向上心、行動力) は、どの項目においても全国の割合とほぼ同様である。

特に、設問5で回答率が高かった (ウ. コミュニケーション能力) では、学科や課程に関わりなく全国平均と同様の傾向を示し、コミュニケーション能力はどの学校においても重要な能力であると考えられている。また、(ク. 道徳心、倫理観) では、大学進学率が低い学校との関連が強く、当然、規範意識の項目との関連も強い。さらに、(キ. 問題解決能力) では、思考力や表現力の評価と関連していることから、確かな学力として問題解決能力が重要であり、授業において記述式の問題を取り入れることが重要であると考えられる。

③ 記述に関する分析・考察

<自由意見の分類> (詳細は、資料「自由記述のまとめ」を参照)

- ・ 精神面に関連する項目 (忍耐力、道徳観・倫理観、自尊感情、自立心など) が 49 校
- ・ 社会性に関する項目 (社会性、社会貢献、国際性、職業など) が 39 校
- ・ 主に人間関係に関連する項目 (表現力、人間関係力など) が 27 校
- ・ 思考・創造に関する項目 (創造力・想像力、問題解決能力など) が 15 校

<代表的な意見>

- ・ 「忍耐力」(18校)：「身の回りで起こる事象や様々な環境に対して、『耐える』能力、忍耐力を身につけさせることが、社会生活を送るためには重要な資質であると考えます。」
- ・ 「表現力」(コミュニケーションなど)(16校)：「グローバルな視点で人とコミュニケーションを行うことができ、個々の興味・関心・能力に応じて、様々な取り組みに挑戦する積極性が必要である。政治、経済など社会の先行きが見えない状況においては、個々の生徒が自らの目標を見定め、具体的に行動しつつ反省し、社会にどう適応するのかを考えさせる、PDCAの思考と行動の訓練を学校教育の中で重視したい。」
- ・ 「社会性」(15校)：「競争させることも必要だが、協力することの大切さも教え、人が生きるということは社会とともにあることを伝えることが必要である。」
- ・ その他に、「国際性・愛国心」(11校)、「人間性」(11校)、「人間関係力」(11校)、「自立心」(10

校)、「創造力・想像力」(9校)などがある。

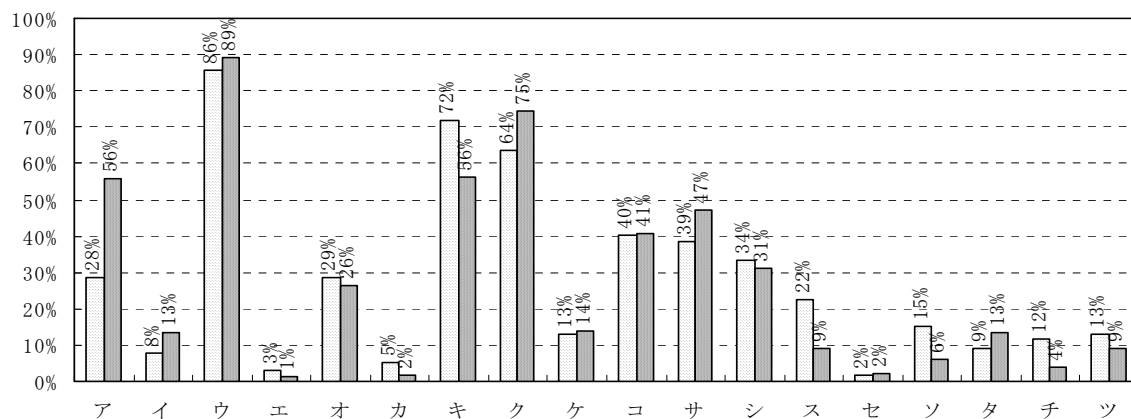
このように、設問5を補足する自由記述には、「忍耐力」のような精神的な強さ、「表現力」のような自分の考えを表現するコミュニケーション能力、「社会性」のような社会の中で人と関わって生きようとする力を求める声が多い。また、全体的な傾向として、精神面や社会性、人間関係力といった人間性に関わる能力や資質が求められていると考えられる。

④ 学科別による分析・考察

普通科と専門学科とを比べてみると、設問5の回答率に大きな差異は見られない。このように、普通科や専門学科といった学科に関わりなく、すべての設問や項目に対して、同程度に必要であると考えられている。

⑤ 進学率による分析・考察

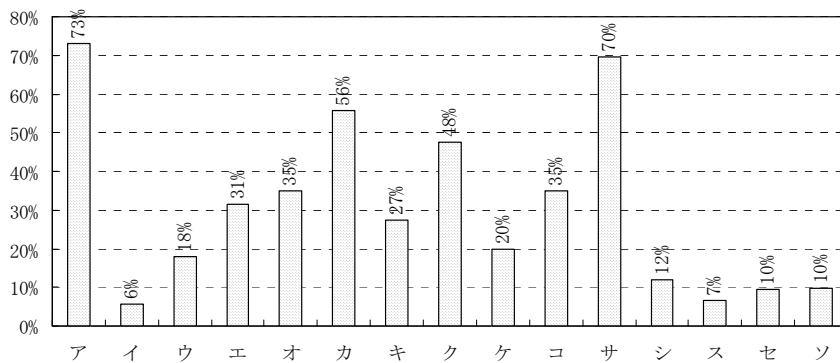
設問5における4年制大学の進学率で、(エ. 60%~79%)と(オ. 80%以上)を合わせた学校を仮に「進学重視校」、(ア. 20%未満)の学校を仮に「進学多様校」として設問5を分析すると、以下ようになる。



進学重視校と進路多様校ともに同様の傾向を示しているが、両者の違いのある項目の回答率のうち、進学重視校の方で高いのは(キ. 問題解決能力) (ソ. 異文化理解、語学力)であり、進路多様校の方で高いのは(ア. 基礎基本) (ク. 道徳心、倫理観) (サ. 思いやりの心)である。このような違いは、卒業後の目指す進路について、進学なのか就職なのか、それぞれの学校が抱える教育課題や進路指導の在り方に影響していると考えられる。

6 このことを踏まえ、高等学校において、特に力を入れる取組は何ですか。（回答は5つ以内）

- ア. 「生きる力」の基礎基本である教科書に基づき、確かな基礎学力の定着を図る。
- イ. 「観点別評価」を導入し、多様な観点から評価を取り入れた授業を行う。
- ウ. 「思考力・判断力・表現力」などを育成する校内研修を行う。
- エ. 「興味・関心・意欲」の重要性を理解する教員の意識改革を行う。
- オ. 実験・実習を伴う教科・科目等では、体験的な活動を取り入れた授業展開を行う。
- カ. 生徒の自主性を育て、豊かな人間関係を築くために、学校行事や部活動等を一層重視する。
- キ. 互いに思いやり尊重しあう人間を育成するために、組織的・計画的に人権教育を推進する。
- ク. 講義中心の授業から、生徒が自ら問題を発見し、考え、解決する問題解決型の授業に転換する。
- ケ. 心身の健康や体力の増進や忍耐力の育成を図るため、体育的な行事や部活動等を一層充実させる。
- コ. 日本語を正しく理解し、表現できる言語活動を重視した教育を展開する。
- サ. 生徒が将来の夢や目標をもち、職業観・勤労観が持てるような3年間を見通したキャリア教育を行う。
- シ. 国際化社会に生きていくために、外国語（英語等）による会話や書物等を理解できる力を育成する。
- ス. 数学や理科の授業時数を増やし、論理的、科学的な思考力を育成する。
- セ. 授業に新しいメディアやスキルを導入し、学校全体の教育へのチャレンジ性を高める。
- ソ. 環境や金融・経済、消費など、今日的な課題を扱った横断的な学習や教育課程の編成を行う。



ア	2053	73%
イ	157	6%
ウ	506	18%
エ	881	31%
オ	980	35%
カ	1566	56%
キ	764	27%
ク	1333	48%
ケ	554	20%
コ	977	35%
サ	1949	70%
シ	333	12%
ス	188	7%
セ	268	10%
ソ	271	10%

① 全体の分析・考察

高等学校において特に力を入れる取組として回答数が多いのは、（ア. 確かな基礎学力）（サ. キャリア教育）（カ. 学校行事や部活動等）（ク. 問題解決学習）の順であり、逆に少ないのは（イ. 観点別評価の導入）（ス. 理数系の重視）（シ. 語学力の育成）の順である。

このように、高等学校で特に力を入れる取組として、何よりもまず基礎基本の定着や将来の進路意識を高めたり、学校行事や部活動を一層充実させたり、問題解決や体験的な活動や言語活動を取り入れた授業展開を行っていくことが重要であると考えている。一方、限られて選択数のため、観点別評価の導入や論理的・科学的な思考力や情報活用能力や総合的・横断的な学習については、それほど重視されていない傾向にある。

② 設問6と他の項目との関連

設問6のア～ソと他の設問の項目とのクロス集計の結果、関連の強いものは以下のとおりである。

- ・（ア. 確かな基礎学力）⇔5；基礎基本、7；知識・理解、資格取得、8；基礎基本、
- ・（イ. 観点別評価）⇔進学率 20%未満、7；興味関心、検定試験、8；部活動、資格取得、職業観・勤労観
- ・（ウ. 校内研修）⇔普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、6；問題解決学習、7；問題解決、質的評価、外部模試、PISA

- ・ (エ. 興味・関心) ⇔5 ; 好奇心・意欲、6 ; 観点別学習
- ・ (オ. 体験活動) ⇔工業、進学率 20%未満、就職率 40%以上、7 ; 検定試験、部活動等、ボランティア、8 ; 資格取得、企業との連携、職業観・勤労観
- ・ (カ. 部活動) ⇔8 ; 部活動
- ・ (キ. 人権教育) ⇔5 ; 道徳心・倫理観、思いやり、7 ; 部活動等、8 ; ボランティア、医療機関との連携、規範意識
- ・ (ク. 問題解決型の授業) ⇔5 ; 問題解決、7 ; 問題解決学習、質的評価
- ・ (ケ. 部活動等) ⇔5 ; 健康・体力、根気強さ・精神力、6 ; 部活動、7 ; 検定試験、部活動、8 ; 部活動、体験活動、規範意識
- ・ (コ. 言語活動) ⇔普通科、就職率 10%未満、7 ; 質的評価
- ・ (サ. キャリア教育) ⇔進学率 20%未満、就職率 40%以上、7 ; 検定試験
- ・ (シ. 語学力) ⇔普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5 ; 異文化理解、6 ; 科学的思考、7 ; センター試験、外部模試、英検等の受験、8 ; 進学・就職の補習、言語表現
- ・ (ス. 科学的思考) ⇔普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5 ; リーダーシップ、異文化理解、科学的・論理的思考、7 ; 記述式問題、質的評価、センター試験、外部模試、英検等受験、PISA、8 ; 進学就職の補習、表現力・思考力、個別面談
- ・ (セ. メディア・スキル) ⇔5 ; バイタリティー、リーダーシップ、異文化理解、情報活用能力、8 ; 情報機器の活用
- ・ (ソ. 横断的学習) ⇔商業、5 ; 異文化理解、社会科学的な力、6 ; 記述式問題、PISA、8 ; 社会性・倫理観

特に、設問6で回答率の高かった(ア. 確かな基礎学力)では、設問5、7、8の基礎基本と強く関連していることから、多くの学校が、これからの社会で求められる能力や資質を挙げ、授業で教科書程度の基礎基本をしっかりと身に付けることが大切であり、学校経営上、授業改善や家庭学習の充実が重要であると考えている。次に回答率の高かった(サ. キャリア教育)では、進学率が20%未満で就職率40%以上の学校、及び検定試験の項目と関連が強い。キャリア教育は、どの学校でも重要な取組であることから、今後、キャリア教育を望ましい職業観・勤労観の育成の視点から、改めて見直す必要がある。

③ 記述に関する分析・考察

<自由意見の分類>

- ・ 思考力・表現力の育成に関する項目(問題解決能力、コミュニケーション能力など)が29校。
- ・ 道徳観・倫理観に関する項目(道徳教育、規範意識、基本的な生活習慣など)が29校。
- ・ キャリア教育に関する項目(職業観・勤労観、在り方・生き方、体験的な活動など)が22校。
- ・ 教員の人材育成に関する項目(教員の人材育成、授業改善など)が16校。
- ・ 基礎・基本に関する項目(基礎学力・一般教養、語学・読書など)が14校。

<代表的な意見>

- ・ 「コミュニケーション能力の育成」(17校): 「社会人を含めた異世代との交流をとおして、コミュニケーション力や表現力を養い、問題に対する解決の取組姿勢等を大人の背中をとおして習得させる。」
- ・ 「道徳教育の推進」(16校): 「道徳教育に対する教師の意識高揚を図るとともに、全ての学校活動において道徳教育を行う。」
- ・ 「社会貢献・社会体験」(14校): 「道徳、倫理、哲学などの根本的な価値観が問われるような授業。共同することで、他人との関係が体得できような行事や活動。イベント的なボランティアではない老人福祉など、本当の奉仕活動。」
- ・ 「問題解決能力の育成」(12校): 「すべての授業を「問題解決型」に転換するのではなく、基礎学力の定着、学力の伸長、問題解決力育成をバランス良くめざす取り組みが必要ではないかと考えます。」

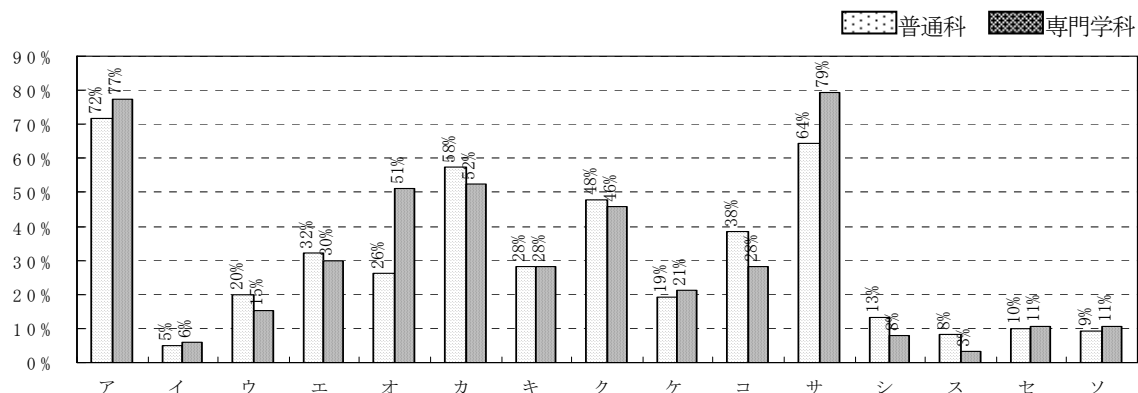
- ・「キャリア教育（職業観・勤労観）の推進」（12校）：「キャリア教育を通じて職業観を育て、明確なライフプランに沿った学習に取り組む習慣、自己確立の努力を支援する。そのため多くの体験学習に地域との関係機関と連携する活動を取り入れている。」
- ・「教員の人材育成」（11校）：「学校外の人材を利用する機会がますます増えるので、渉外力やコミュニケーション能力が教員に必要になってくる。体験的学習やキャリア教育を推進していくことができる教員の育成が必要である。」

このように自由記述においても、高等学校で重視すべき取組として、コミュニケーション能力や問題解決能力のような思考力や表現力を育成する授業、規範意識や社会貢献のような倫理観・道徳観を育成する道徳教育、職業観・勤労観や人間としての在り方・生き方を育成するキャリア教育、確かな学力の根幹をなす基礎基本を重視した授業、そして、それらを支える教員の人材育成が重要であると考えられている。

④ 学科別の分析・考察

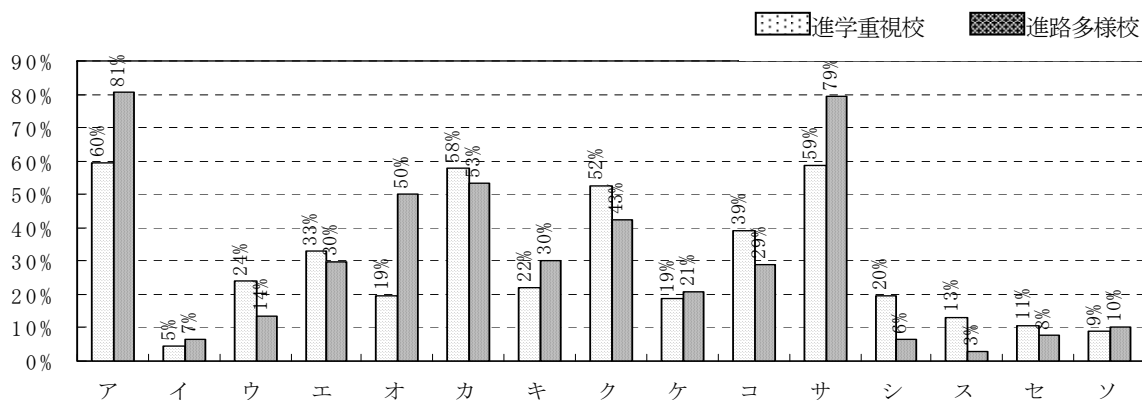
設問6を普通科と専門学科で分析すると次ページのようになる。

普通科と専門学科を比べると、普通科より専門学科の方で回答数の多いものは（サ. キャリア教育）（ア. 確かな基礎学力）、特に（オ. 体験的な活動）で違いが大きい。一方、専門学科より普通科の方で回答数の多いものは（カ. 学校行事や部活動等）（ク. 問題解決学習）（コ. 言語活動）である。このように、普通科と専門学科とでは全体的に同様の傾向を示すが、項目によって差異が現れるのは、それぞれの学科が目指す教育的な課題に影響していると考えられる。



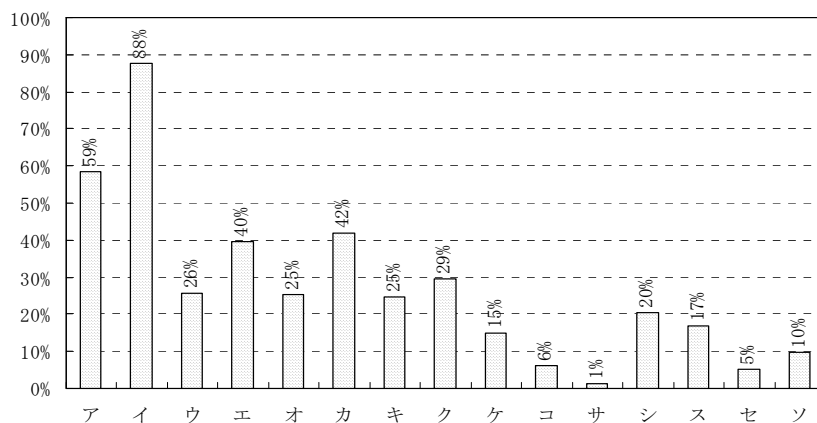
⑤ 進学率による分析・考察

進学率による違いを見ても、学科別と同様の傾向を示しているが、差異についてはより顕著になっている。このように、取組として何を重視するかは、生徒の卒業後の進路の違いによって異なると考えられる。



7 「確かな学力」を身に付けさせるために、どのような授業改善を行う必要がありますか。（回答は5つ以内）

- ア. 各教科・科目の授業において、講義形式の授業から問題解決的な授業へ転換する。
- イ. どの授業においても、まず基礎的・基本的な知識・理解や技能をしっかり身に付けさせる。
- ウ. 定期考査において、思考力・判断力・表現力を評価する記述式の問題を多く取り入れる。
- エ. 知識・理解等を量的に評価する出題から、思考力や表現力など質的に評価する出題を多く取り入れる。
- オ. 観点別評価を導入し、「興味・関心・意欲」なども評価の観点に位置づけ、評価と指導の一体化を図る。
- カ. 外部における各種検定試験にも挑戦させ、授業内容や指導のレベルを高め、補習・補講を行う。
- キ. 「大学入試センター試験」に挑戦できるよう、授業内容や指導のレベルを高め、補習・補講を行う。
- ク. 外部模試を積極的に活用し、個別の学力データを継続的に把握し、学習改善や授業改善に生かす。
- ケ. 英語検定やTOEFLなど、語学力を評価する手段を活用し、より高い目標に向かって挑戦させる。
- コ. 高大接続テスト（仮称）を早期に導入し、各教科・科目の習得レベルを把握し、学力向上に生かす。
- サ. バカロレアやSAT、ACTなどの諸外国の試験にも受験できるよう、指導内容や指導体制を整備する。
- シ. 推薦や就職のための校内選考において、教科以外の委員会や部活動等の実績も評価基準に加味する。
- ス. ボランティア活動や地域貢献など、学校外での学修も単位認定する。
- セ. 教科内容の到達度を測る「高等学校卒業程度認定試験」問題を活用し、教科学力の向上を図る。
- ソ. 国際到達度評価(PISA)問題を参考に、思考力・判断力・表現力の育成を重視する授業を行う。



ア	1643	59%
イ	2454	88%
ウ	719	26%
エ	1114	40%
オ	710	25%
カ	1174	42%
キ	696	25%
ク	826	29%
ケ	422	15%
コ	169	6%
サ	35	1%
シ	573	20%
ス	470	17%
セ	145	5%
ソ	274	10%

① 全体の分析・考察

「確かな学力」を身に付けさせるために必要な授業改善として回答数が多かったのは（イ. 知識・理解や技能）で約9割、次いで、（ア. 問題解決的な授業）が6割、（カ. 各種検定試験）（エ. 質的な評価）がそれぞれ約4割である。

一方、授業改善として回答数が少ないのは（サ. 諸外国への受験）（セ. 高卒認定試験への受験）（コ. 高大接続テストの導入）（ソ. PISAへの対応）の順で、外部における認定試験等への挑戦や対応については消極的であることが分かる。

これからの社会に生きていくために必要な能力や資質として、何よりもまず基礎基本の定着を図り、そのうえで問題解決学習ができるような授業改善が求められている。一方で、高大接続テストの導入や諸外国に受験できる体制づくりなどについては、「確かな学力」を向上させるうえで、あまり必要性を感じていないようである。

② 設問7と他の項目との関連

設問7のア～ソと他の設問の項目とのクロス集計の結果、関連の強いものは以下のとおりである。

- ・（ア．問題解決的な授業）⇔（どの項目においても全国の割合とほぼ同様である。）
- ・（イ．基礎・基本の定着）⇔6；基礎学力
- ・（ウ．思考力・表現力の育成）⇔進学率 80%以上、就職率 10%未満、6；校内研修、問題解決学習、言語活動、7；質的な評価
- ・（エ．質的な評価の重視）⇔進学率 80%以上、就職率 10%未満、5；問題解決学習、6；校内研修、問題解決型の授業、7；問題解決的な授業
- ・（オ．観点別評価の導入）⇔進学率 20%未満、就職率 40%以上、5；基礎基本、6；基礎学力、多様な評価、意識改革、人権教育、キャリア教育、7；部活動等、8；ボランティア、職業観・勤労観
- ・（カ．検定試験のための補習）⇔商業、工業、進学率 20%未満、就職率 40%以上、5；基礎基本、6；基礎学力、キャリア教育、7；部活動等、8；資格取得、関係機関との連携、規範意識、職業観・勤労観
- ・（キ．センター試験のための補習）⇔普通科、進学率 40%以上、就職率 10%未満、5；リーダーシップ、6；部活動、7；外部模試の活用、英検等の受験、8；基礎基本、進学のための補習、論文指導、個別面談
- ・（ク．外部模試の活用）⇔普通科、全日制、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5；リーダーシップ、6；部活動、言語活動、7；センター試験、英検等の受験、8；進学のための補習、論文指導、講演会の実施、
- ・（ケ．英検等への挑戦）⇔普通科、進学率 40%以上、就職率 10%未満、6；異文化理解、8；論文指導、委員会等の充実、
- ・（コ．高大接続テストの導入）⇔普通科、就職率 10%未満、5；異文化理解、6；意識改革、横断的学習、7；PISA、8；基礎基本、職業観・勤労観
- ・（サ．諸外国への受験指導）⇔普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5；リーダーシップ、異文化理解、科学的思考、社会科学的な力、6；校内研修、問題解決型の授業、語学力、論理的思考、科学的な思考、横断的な学習、7；質的な評価、英検等の受験、PISA、8；実験・実習、専門機関との連携、情報機器の活用、論文指導、委員会等の活動、個別面談、社会性・倫理観
- ・（シ．推薦への部活動等の評価）⇔商業、工業、進学率 40%未満、就職率 40%以上、5；道徳心・倫理観、6；体験的活動、部活動、人権教育、体育的行事等、キャリア教育、7；観点別評価、検定試験、8；資格取得、規範意識、職業観・勤労観、
- ・（ス．学校外活動の評価）⇔進学率 20%未満、就職率 40%以上、5；思いやり、6；キャリア教育、7；観点別評価、各種検定、8；ボランティア、資格取得
- ・（セ．高卒認定試験の活用）⇔進学率 40%未満、就職率 40%以上、5；基礎基本、道徳心・倫理観、根気強さ、情報機器の活用、6；意識改革、体験的な活動、人権教育、言語活動、横断的な学習、7；高大接続テスト、8；体験的な活動、資格取得、規範意識
- ・（ソ．PISA を参考にした授業）⇔普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、5；異文化理解、論理的思考、社会科学的な力、6；校内研修、問題解決型の授業、言語活動、語学力、メディア・スキル、横断的な学習、7；質的な評価、英検等の受験、8；論文指導、委員会等、講演会、社会性・倫理観

特に、設問7で回答率の高かった（イ．知識・理解や技能）では、設問6の確かな学力と強く関連していることは設問6で考察した場合と同様である。また、（ア．問題解決的な授業）では、どの項目とも全国の割合と同様であり、どの学科や課程の学校においても、問題解決能力を育成するために問題解決型の授業への転換に力を入れる必要があると考えている。

③ 記述に関する分析・考察

<自由意見の分類>

- ・思考力・表現力等（思考力・表現力の育成、体験的な授業の導入、生きる力の重視、人間関係力の育成）が33校。

- ・基礎基本に関する取組（基礎学力の定着、学び直し、検定・テスト等の実施、読解力の育成、語学、国際交流の推進）が 32 校。
- ・教員の研修（授業に関する研修、生徒理解の推進、組織体制）が 24 校。
- ・学習評価（学習評価の改善・充実、学校外の学修の充実）が 23 校。
- ・指導形態（習熟度別・少人数編成による授業、個別指導の徹底、グループ学習の導入）が 18 校。
- ・基本的な学習習慣（基本的な学習習慣の確立、集中力・忍耐力の育成、学習意欲の向上）が 16 校。
- ・補習・補講（補習・補講の充実、資格取得）が 13 校
- ・家庭学習（家庭学習の充実）が 12 校
- ・入試・学校間連携（中・高・大との連携、入試制度の改善）が 11 校。

<代表的な意見>

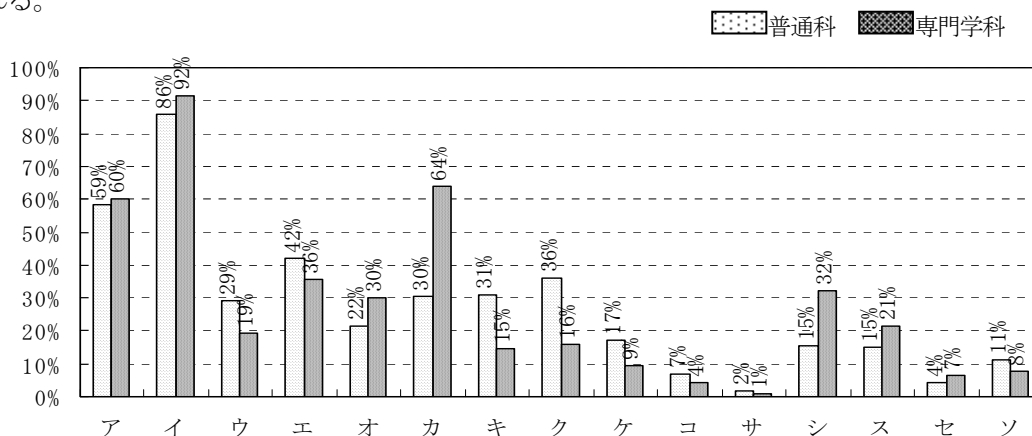
- ・「授業に関する研修」（21 校）：教員の意識、学力観を具体的にする方策（取組）を研究したい。教員の意識や学力観は、旧態依然として曖昧であり、目が覚めるような研修が必要である。
- ・「学習評価の改善・充実」（21 校）：教師がどのような生徒を育てるべきなのか、地域や保護者はどのような期待をかけているのか、ということを確認にして、授業で育てる力、学校行事等で育てる力、補習や補充で育てる力をそれぞれ具体的に検証する必要があると思っています。
- ・「思考力・表現力の育成」（17 校）：「『確かな学力』の低下の大きな原因は、問題解決能力の低下である。問題解決能力の土台となるものは、『確かな基礎学力』である。基礎学力の土台があって、応用力、問題解決能力が向上する。高校段階における基礎学力、学習能力の向上を図るキーワードは、自主学習である。やらされる（受動的）学習から、やる（能動的）学習へのステップが必要、そのためには、ある程度の強制力が必要であり、課題、家庭学習等を生徒に課し、家庭における自主学習の絶対的な時間を増加させる取り組みも必要である。そのような取組から、教科力の強化が図られてくると次第に、問題解決能力も伸長し、次第に自ら学習に取り組む能動的な学習→勉強→研究へと移行していくものと思われる。」

このように、自由記述においても、全体集計同様、基礎基本の定着や思考力・表現力の育成の重要性を指摘する声が多く、そのために教員研修による人材育成や教育条件の整備の必要性を感じているようである。

④ 学科別の分析・考察

設問 7 を普通科と専門学科で分析すると以下ようになる。

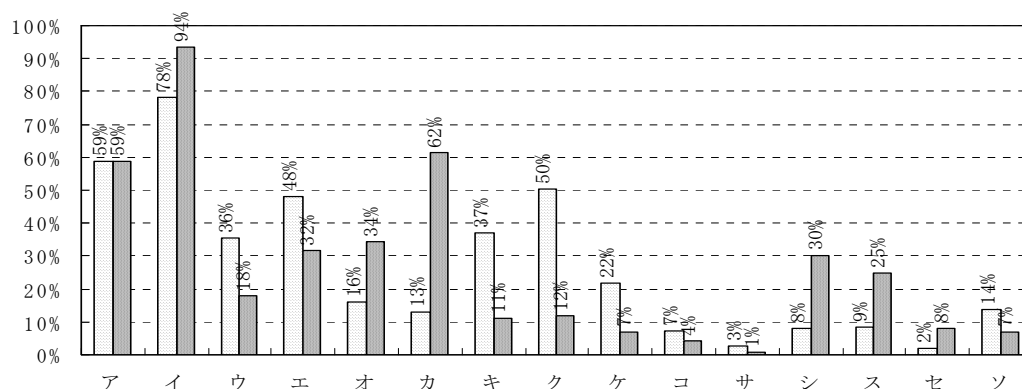
普通科と専門学科とを比べると、回答数が普通科よりも専門学科の方で回答数が多いものは（イ. 知識・理解や技能）（カ. 各種検定への挑戦）（シ. 部活動等の実績の評価）であり、一方、専門学科より普通科の方で回答数が多いものは（エ. 質的な評価）（ク. 外部模試の活用）（キ. センター試験への挑戦）である。これらの傾向は、（進学率による分析・考察）の結果と類似しており、卒業後の進路に向けた取組に影響があると考えられる。



⑤ 進学率による分析・考察

設問7を進学重視校と進路多様校とを比較すると以下ようになる。

進学重視校
 進路多様校

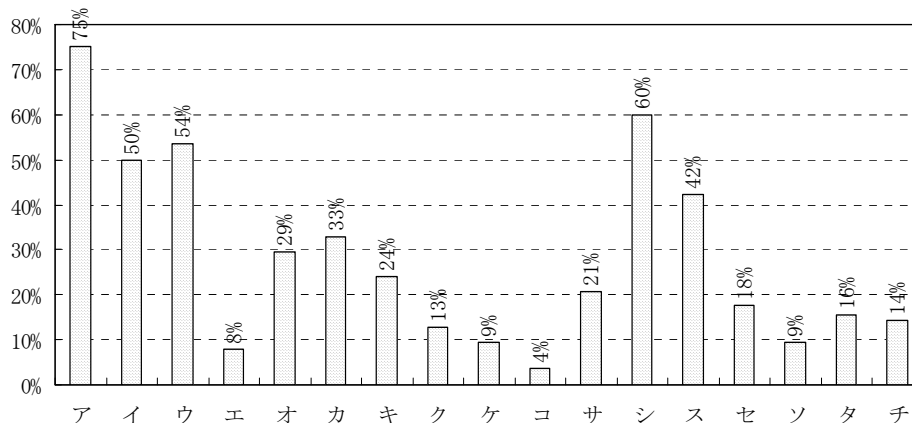


進学重視校と進路多様校とを比べると、進路多様校の方で回答数が多いものは（イ．知識・理解や技能）（カ．各種検定への挑戦）（オ．観点別評価を導入）（シ．部活動等の実績の評価）で、一方、進学重視校の方で回答数が多いものは（ク．外部模試の活用）（エ．質的な評価）（キ．センター試験への挑戦）（ウ．記述式の出題）（サ．諸外国試験への受験）で、様々な受験への挑戦や対応、思考・表現を問う問題への取組を行う傾向にある。

上記の学科別と進学率別による分析の結果から、授業改善の方策において何を重視するかは、学科別以上に進学率別の影響が大きいことが分かる。

8 校長として「学校力の強化」にあたり、特にどのような学校経営が重要だと思いますか。（回答は5つ以内）

- ア. 高校程度の基礎基本の定着を図るために授業改善や家庭学習の充実
- イ. 生徒相互の人間関係を築くHR活動や学校行事、部活動等の充実
- ウ. 生徒の進路希望を叶える進学指導や就職指導のための授業や補講等の充実
- エ. 自然科学に興味・関心を持ち、科学的な考えを養う実験・実習の重視
- オ. 生徒の趣味や特技、個性を伸ばすための部活動や体験活動の充実
- カ. 社会貢献や社会性を育てるボランティア活動や地域行事への積極的な参加
- キ. 資格取得を支援し、知識の修得や技能の向上を目指す授業や補習・補講の実施
- ク. 専門的知識の修得や技能向上のための民間企業や専門機関との連携
- ケ. 心身の健康維持、心のケアのための家庭や医療機関等との連携
- コ. 情報を収集し処理するパソコン等の情報機器の活用
- サ. 言語による表現力や思考力を育てる論文指導の充実
- シ. 基本的な生活習慣の確立や規範意識を育てるためのHR活動や生活指導の充実
- ス. 職業観・勤労観を育成するための組織的・計画的な進路指導の充実
- セ. 生徒の自主性・自律性を育てる生徒会や委員会、係り活動の充実
- ソ. 関係機関や専門家を招いた講演会や授業の充実
- タ. 個々の生徒の進路や学習、生活に関する個別相談や保護者を交えた三者面談の充実
- チ. 自己の内面に向き合う機会の提供や社会性、倫理観の確立のための活動の展開



ア	2105	75%
イ	1403	50%
ウ	1501	54%
エ	225	8%
オ	824	29%
カ	924	33%
キ	675	24%
ク	359	13%
ケ	266	9%
コ	106	4%
サ	576	21%
シ	1683	60%
ス	1182	42%
セ	497	18%
ソ	264	9%
タ	436	16%
チ	401	14%

① 全体の分析・考察

「学校力の強化」を目指す学校経営上の取組として、回答数の多いものは、（ア. 授業改善や家庭学習の充実）（シ. HR活動や生活指導の充実）（ウ. 進学や就職のための補講等の実施）（イ. 学校行事、部活動等の充実）である。一方、回答数の少ないものは、（コ. 情報機器の活用）（エ. 実験・実習の重視）（ケ. 医療機関等との連携）（ソ. 関係機関等による講演会）の順である。

このように「学校力の強化」を目指す視点として、まず、高校程度の基礎基本の定着を図ること、次いで基本的な生活習慣の定着や規範意識の育成、生徒の進路希望に応えるための授業や補習の充実、あるいは豊かな人間関係を培う特別活動等が学校経営上、重要な課題であることが分かる。

② 設問8と他の項目との関連

設問8のア～チと他の設問の項目とのクロス集計の結果、関連の強いものは以下のとおりである。

- ・ (ア. 授業改善・家庭学習) ⇔ 5 ; 基礎基本、6 ; 確かな学力
- ・ (イ. 部活動等の充実) ⇔ 6 ; 部活動、体育的行事
- ・ (ウ. 進学・就職の補習) ⇔ 7 ; センター入試、外部模試
- ・ (エ. 科学的な実験・実習) ⇔ 普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、就職率 40%以上、5 ; 好奇心・意欲、問題解決能力、論理的・科学的思考、6 ; 科学的な実験・実習、問題解決型の授業、科学的思考、7 ; 質的な評価、8 ; 専門機関との連携
- ・ (オ. 部活動等の充実) ⇔ 6 ; 部活動等、体育的行事等
- ・ (カ. ボランティアへの参加) ⇔ 進学率 20%未満、5 ; 思いやり、6 ; 人権教育、7 ; ボランティア
- ・ (キ. 資格取得への支援) ⇔ 商業、工業、5 ; 進学率 40%未満、就職率 40%以上、5 ; 基礎基本、情報機器、6 ; 確かな基礎学力、体験的な活動、キャリア教育、7 ; 知識・理解・技能、観点別評価、検定試験、委員会等の評価、ボランティア活動
- ・ (ク. 専門機関との連携) ⇔ 農業、商業、工業、進学率 20%未満、就職率 40%以上、6 ; 意識改革、体験的な活動、問題解決型の授業、キャリア教育、7 ; 観点別評価、検定試験、部活動等の評価、8 ; 資格取得、職業観・勤労観
- ・ (ケ. 医療機関との連携) ⇔ 普通科、定時制、単位制、通信制、5 ; 健康・体力、思いやり、6 ; 人権教育
- ・ (コ. 情報機器の活用) ⇔ 商業、進学率 20%未満、5 ; 異文化理解、情報活用能力、6 ; 語学力、メディア・スキル、7 ; 語学力の評価、PISA、8 ; 資格取得
- ・ (サ. 論文指導) ⇔ 普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5 ; 問題解決能力、リーダーシップ、異文化理解、6 ; 校内研修、問題解決型の授業、言語活動、語学力、科学的思考、7 ; 記述式問題、質的な評価、センター試験、外部模試、英検等への挑戦、PISA
- ・ (シ. 規範意識の育成) ⇔ 5 ; 道徳心・倫理観、6 ; 確かな基礎学力
- ・ (ス. 職業観・勤労観) ⇔ 進学率 20%未満、就職率 40%以上、6 ; キャリア教育
- ・ (セ. 委員会等の充実) ⇔ 普通科、進学率 60%以上、就職率 10%未満、5 ; リーダーシップ、6 ; 行事等、問題解決型の授業、7 ; 質的な評価、外部模試、英検等への挑戦、8 ; 論文指導
- ・ (ソ. 関係機関からの支援) ⇔ 普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、5 ; バイタリティ、リーダーシップ、異文化理解、科学的思考、社会科学的な力、6 ; 校内研修、問題解決型の授業、語学力、科学的思考、横断的な学習、7 ; 質的な評価、センター試験、外部模試、英検等への挑戦、PISA、8 ; 論文指導
- ・ (タ. 個別・三者面談) ⇔ 普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、7 ; センター試験、外部模試
- ・ (チ. 社会性・倫理観) ⇔ 普通科、進学率 80%以上、就職率 10%未満、5 ; 根気強さ、思いやり、社会科学的な力、6 ; 人権教育、言語活動、横断的な学習、7 ; 質的な評価、PISA

特に、設問8で回答率の高かった(ア. 授業改善・家庭学習)では、設問5、6における基礎基本と関連が強い。これは、これまでの考察同様、多くの校長が、教科書程度の知識や理解、技能を定着させることが重要であると考えている。また、次に回答率の高かった(シ. 規範意識の育成)では、道徳心・倫理観の育成や確かな基礎学力の定着と関連が強い。このことは、基本的な生活習慣の定着や規範意識の高揚と基本的な学習習慣の定着との間に関連が強く、いずれも授業やHR活動等、様々な場面で行うことが重要であると考えている。

③ 記述に関する分析・考察

<自由意見の分類>

- 学校経営に関する取組（計 163 校）
 - ・開かれた学校づくり（保護者・地域との連携、関係機関との連携・協力、小・中学校、大学との連携、ボランティア活動、広報活動）が 64 校
 - ・教員の人材育成（教員の人材育成、教員研修、教員の意識改革）が 38 校
 - ・校長の学校経営（校長の学校経営力の向上、教員の人事構成、学校評価の活用）が 28 校
 - ・組織・指導体制（組織体制）が 27 校
- 特色ある教育活動に関する取組（学習指導に関する取組、授業改善、自校の教育課題の改善、教育課程の編成、ものづくり教育の充実、学力向上、問題解決力の育成、学習意欲）が 16 校
- 生活指導に関する取組（基本的な生活習慣、道徳教育の充実、生徒理解、教育相談の充実）が 18 校
- 進路指導に関する取組（進路指導の充実、資格取得の推進、大学入試の改善）が 18 校
- 特別活動等に関する取組（学校生活の充実、学校行事・部活動等の充実、クラス経営）が 15 校

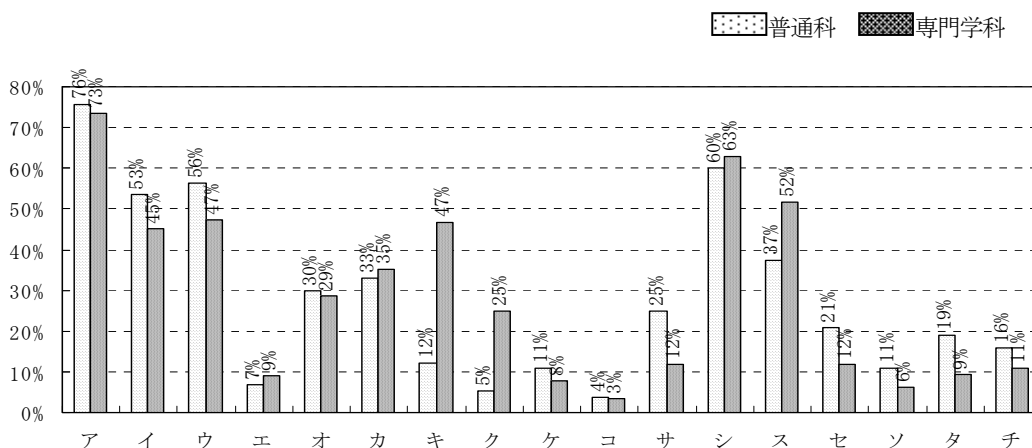
<代表的な意見>

- ・「保護者・地域との連携」(39 校)：「学校の教育目標や具体的な行動計画を、家庭や地域住民に情報発信するとともに、家庭や地域住民が学校に求めるものを汲み上げ、双方が連携・協働して学校経営にあたっていく仕組みづくりが大事である。」
- ・「組織体制」(27 校)：「学校経営に当たっては、本校の在り方、教育観において、そのベクトルを教職員と一にし、機軸を揺らすことなく、方向を明確にすることが大事である。ぶれない教育方針を明確に、保護者・地域・教職員に指し示す必要がある。そのためには、具体的施策を目に見える形で生徒・保護者・教職員に示すことが肝要である。」
- ・「教員の人材育成」(21 校)：「なによりも、教師全体が『授業力』、『コミュニケーション力』、『社会人としての常識』のレベルアップを図ることが『学校力の強化』につながる。」
- ・「校長の学校経営力の向上」(18 校)：「個々の学校が自信を持って、自分たちの目標として掲げたことが一つでも二つでもできれば、また次のステップに進んでいく。多くのことを一度にすべてやろうとすると、実行できずかえって職員が自信をなくす。学校力は、学校が全体で取り組んで実行できた時に感じることでできるものであると思う。従って、職員の思いを常に校長、教頭が会話を通じて感じ取る取組が重要である。」
- ・「授業改善」(17 校)：「教師の授業力の向上と教育に対する熱意、情熱を高めることを徹底してほしい。プロフェッショナルな力量と、情熱のあるもののみが教育に携わることが出来るシステム、あるいは育成システムを徹底的に追求する。（どのような指導も、教師の力量が全てです。従来の教師の力量では、追いつかない時代です。半年ぐらいは合宿で徹底指導を受けてフィールドに出るぐらいの厳しい育成システムを構築してほしい。予算もかかるが、色々な取り組みを精査して教師の力量と、情熱アップに力を注いでほしい。）生徒の意識づくりに大きく影響を与えている要因を分析する（プラス要因、マイナス要因）。」
- ・「自校の教育課題の改善」(16 校)：「PISAの結果フィンランドやシンガポールなど他国と比較し、学力低下が言われ、学習指導要領や学校教育に、批判の矛先が集中している。しかし、他国と異なり、携帯電話に関わる犯罪が頻出している現状、1日4～5時間が平均という過度の携帯電話の使用が野放しで、不必要な情報の氾濫し、情報の選択力の低下による犯罪への誘因、さらに家庭の教育力の低下など、学校教育以外にマイナス要因が多くあり放置されている。このように学校教育が浸食されている中にあり、学習指導要領や教育課程の見直しだけで改善できるのであろうか。現在、生徒達の生活環境が、非常に脆弱になっているので、根本となる教育環境の点検を行い、その改善の提言や具体的な行動を起こさなければならぬ瀬戸際に来ているように思う。この際、学校が、問題提起し、具体的な行動の中心となり、家庭と連携し改善を果たさねばならないのではないか。」

④ 学科別の分析・考察

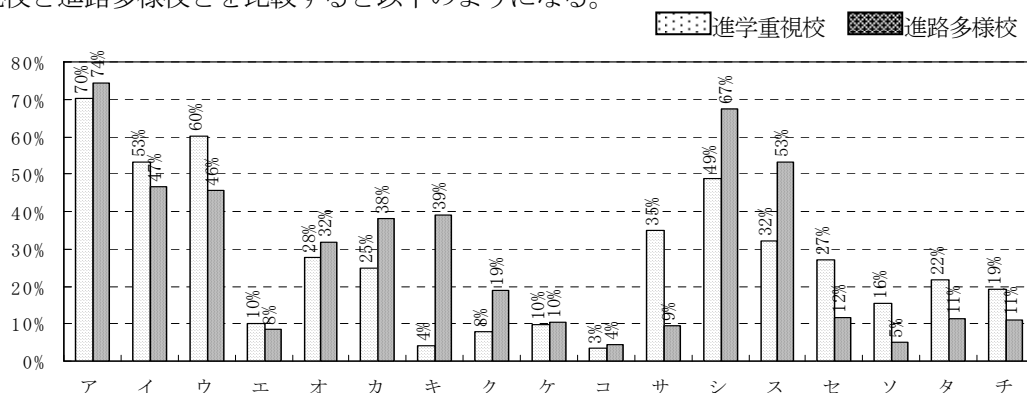
設問8を普通科と専門学科で分析すると以下ようになる。

普通科と専門学科とを比べると、回答数が普通科よりも専門学科の方で回答数が多いものは、（シ. HR活動や生活指導の充実）（ス. 組織的・計画的な進路指導）（キ. 資格取得のための補習等の実施）（カ. ボランティア活動等への参加）（ク. 民間企業等との連携）であり、一方、普通科の方で回答数の多いものは、（ア. 授業改善や家庭学習の充実）（ウ. 進学や就職のための補講等の実施）（イ. 学校行事、部活動等の充実）である。



⑤ 進学率による分析・考察

設問8を進学重視校と進路多様校とを比較すると以下ようになる。



進学重視校と進路多様校とを比べると、進路多様校の方で回答数が多いものは、（ア. 授業改善や家庭学習の充実）（シ. HR活動や生活指導の充実）（ス. 組織的・計画的な進路指導）であり、一方、進学重視校の方で回答数の多いものは、（ウ. 進学や就職のための補講等の実施）（イ. 学校行事、部活動等の充実）（サ. 論文指導の充実）である。

Ⅲ まとめと提言

いま社会が大きく変化し、グローバル化する中で、我が国の教育において、学力や学習意欲の向上、規範意識の高揚、生徒の多様な進路実現など、様々な教育課題が山積している。これらの教育課題に対し、高等学校において、これからの社会に求められる能力や資質とは何か、それらをどのように育成するか、「確かな学力」をどのように身に付けさせ、どのような学校改善を行っていくか、高等学校における「学校力の強化」が期待されている。「学校力の強化—これからの社会に求められる能力や資質を育成する視点から—」に関するアンケート調査の分析・考察から、本委員会として、次のようなまとめと提言を行う。

1 これからの社会に求められる能力や資質について

① 分析

どの学科や課程においても、これからの社会に求められる能力や資質として重要であるものは、「コミュニケーション能力」がトップで、次いで「道徳心・倫理観」「問題解決能力」「基礎基本」の順であるが、卒業後の進路によって資格取得や進学対応などで異なる傾向がある。一方、「伝統文化理解・技術力」「感性・芸術性」「想像力・創造力」の順に回答率が低い。また、自由記述では「精神面」「社会性」「人間関係」「思考・表現」の順で回答が多い。

② 考察

経済や産業のグローバル化、国際化・情報化の進展、雇用情勢の厳しい現実、学力低下といわれる今日、我が国の将来を担う人材を育成する観点から、卒業後の進路を意識した能力や資質の向上が大きな課題として捉えられ、それらに比べて感性や想像といった人間の内面に関わる情意的側面については、それほど課題として意識されていない傾向にある。

③ 検討課題

これからの社会に求められる能力や資質について、変化する社会や各学校の実態を踏まえた結果となっているが、高等学校における教育が卒業後の進路選択の準備としての機能だけでなく、将来にわたる人間形成としての基盤をつくる観点から、「不易」な側面としての感性や想像性などの心の豊かさに迫る教育についても、再認識する必要があるのではないかと。

2 今後、高等学校において特に力を入れる取組について

① 分析

これからの社会に求められる能力や資質を育成するために、高等学校において特に力を入れる取組として、「確かな基礎学力」「キャリア教育」が7割前後、次いで「学校行事や部活動等」「問題解決学習」の順である。一方、「観点別評価の導入」「理数系の重視」「語学力の育成」については順位が低い。また、自由記述では、「思考・表現」「道徳観・倫理観」「キャリア教育等」「基礎・基本」の順に力を入れる取組を挙げている。

② 考察

「学力低下」が叫ばれる今日、将来の進路意識を高めつつ、基礎基本を定着させ、自ら考え、表現できる能力を育成し、さらに学校行事や部活動をとおして、充実した学校生活を過ごさせたいとする一方、新たな評価方法の導入や、理科、語学等の特定の教科を重視する取組については、共通な取組とはなり得ない学校現場の実態が伺える。

③ 検討課題

様々な教育を抱えて取り組んでいる高等学校の現場において、観点別評価の導入には十分な理解が必要であろう。また、各学校には卒業後の進路実現に向けた取組が基本にあるため、特定の教科にウエイトをかけるににくい現状にあるようである。しかし、科学技術の進歩や情報化・国際化の進展する社会に生きる生徒に対して、今後とも各学校の実態に応じてとり組むことが求められる。

3 「確かな学力」の定着に向けた授業改善について

① 分析

多くの学校において、何よりもまず基礎・基本となる「知識・理解や技能」の定着が重要であり、その上に立って「問題解決的な授業」や「思考力や表現力等の評価」を重視した授業改善が重要であると考えているが、一方、諸外国への受験や高卒認定試験のための準備、あるいは高大接続テスト（仮称）の導入には消極的である。また、自由記述では「思考・表現」「基礎基本」「教員研修」「学習評価」など様々な観点から授業改善の方策を挙げている。

② 考察

高等学校における「確かな学力」とは、一般的には基礎基本を学習指導要領に示されたことから、また、「確かな学力」を教科書に示された学習内容を指しているとする、多くの学校が「確かな学力」の定着、さらには思考力や表現力を育成するための授業改善が重要な課題となっている。一方で、各学校の授業の在り方は、センター試験や資格取得等、採用選考や入試選抜の内容や方法に影響を受けやすいことが分かる。

③ 検討課題

各学校は、それぞれ生徒や保護者・地域の期待、変化する社会への対応に応えるべく、その核となる授業改善に日々取り組んでいる。しかし、教育のグローバル化の進展に伴い、高大接続テスト（仮称）など入試制度の在り方が検討されているが、入試制度の在り方が高等学校の授業にどのような影響を与えるかについて検討する必要がある。

4 「学校力の強化」を目指す学校経営について

① 分析

「学校力の強化」を目指す最も重要な課題は「授業改善や家庭学習の充実」であり、次いで「HR活動や生活指導の充実」「進学や就職のための補講等の実施」「学校行事、部活動等の充実」の順である。一方、「情報機器の活用」「実験・実習の重視」「関係機関との連携」については、「学校力の強化」としての位置づけが低い。また、自由記述には「地域との連携」「教員の人材育成」「組織や指導体制」「校長の経営姿勢」などの順に様々な方策が示されている。

② 考察

「学校力の強化」を目指す視点として、学校経営上、特に、基礎基本の定着、規範意識の高揚、進路実現に向けた支援、人間関係の構築等が重要であると考え、情報活用能力や科学的な思考の育成、関係機関からの支援については、比較的重視されない傾向にある。このような「学校力の強化」の視点には、これからの社会に求められる能力や資質の育成に応えようとするものであるが、各学校が抱えている今日的な課題や生徒や保護者・地域の期待、各学校の果たす役割によっては視点の置き方に違いが見られるものもある。また、「学校力の強化」を目指す学校経営の方略として、教員や保護者・地域といった人材活用や組織体制の整備が重要であると考えている。

③ 検討課題

これからの社会には、科学技術や国際化・情報化の進展に伴い、産業や経済の急激な変化、地球温暖化の進行や貧富の差の拡大、我が国においては少子高齢化や雇用情勢の困難等、様々な課題が山積している。一方、教育ではグローバル化の進展に伴い、教育格差の拡大、学力低下、入試制度の改革などが叫ばれている。今回の調査結果から、基礎学力の向上、規範意識の高揚、進路実現に向けた取組、望ましい人間形成などに対して、学校経営上、重視する傾向にあるが、地域や関係機関との連携、語学力の育成、理数系の学力向上、情報機器の活用、諸外国への受験対応などについては、全般的に見てやや消極的な傾向にある。今後、思考力や表現力の育成、そのための授業改善、キャリア教育の推進、新たな入試制度の導入、評価方法の検討、地域や関係機関等の潜在力の活用など、各学校の実態に応じた「学校力の強化」を目指した取組が期待される。

5 「学校力の強化」を目指した取組についての提言

高等学校は、学科や課程、生徒の実態や保護者・地域の期待、あるいは卒業後の進路決定に向けた取組などによって、何に重点を置かずか違いはあるものの、これからの社会に求められる能力や資質については、概ね同様の傾向を示している。

これからの社会に求められる能力や資質とは何かを議論するとき、まず、先行き不透明な社会ではあるが、想定される社会について議論する必要がある。次に、そのような社会に求められる能力や資質とは何か、一方で社会が変化しようとも変わらない「不易」な能力や資質とは何か、これらの能力や資質をどのように育成するか、そのために校長は、「学校力の強化」、すなわち各学校の抱えている実態を踏まえ、与えられた人的・物的条件を活用し、最大限の教育効果を上げようとするかが求められている。

しかし、多くの学校が、卒業後の進路決定を意識した教育活動を行っているため、入試制度の変更や雇用情勢の変化によって、重点とする教育目標や具体的な教育活動に影響を及ぼすと考えられる。例えば、観点別評価の導入によって、情意的側面への評価の広がりも期待できるが、導入上の課題もある。また、高大接続テスト（仮称）の導入によって、学力に関する「質の保証」を図るねらいがある一方で、生徒への負担、教育活動全体への影響も懸念されるという声も挙がっている。

いま高等学校では、学習指導要領に基づき、生徒の発達段階に応じた適切な教育が行われている。改めて「不易と流行」という視点から、何を重点に、どのように取り組むか、各学校の自律的な学校改善が求められている。そこで、教育課題検討委員会の専門委員から次のような提言を行い、各委員の活発なご意見をいただきたい。

（提言1） これからの社会に求められる能力や資質として、コミュニケーション能力、倫理観・道徳心、問題解決能力の育成とともに、教育の「不易」な視点についても再認識する必要がある。

教育のグローバル化の進展に伴い、国際到達度評価(PISA)の結果をどのように受け止め、「学力低下」と叫ばれている今日、高等学校の現場の抱えている課題は何か、これからの社会をどのように捉え、求められる能力や資質をどのように育成していくか検討する必要がある。一方、豊かな人間性の育成という教育の「不易」の視点から再認識する必要がある。

（提言2） 「学校力の強化」を目指すために、今後、教員の人材育成や組織体制の整備などとともに、地域や関係機関との連携についても一層強化することが重要である。

「学校力の強化」には、教員の人材育成、学校の組織・指導体制の整備、教育内容の改善・充実など校内の努力を行う一方、今後とも各学校が置かれている地域や関係諸機関の潜在力を活用した、開かれた特色ある学校づくりについて検討していく必要がある。

（提言3） 新学習指導要領の実施に伴う「観点別評価」の意義や「高大接続テスト（仮称）」の導入について、今後、具体的な検討が必要である。

新学習指導要領の段階的な実施に伴い、道徳教育や理数系科目などの充実が求められている。「観点別評価」の導入された場合、どのように対応し、どのような教育的効果が期待できるか検討する必要がある。一方、「質の保証」に伴い、「高大接続テスト（仮称）」の導入が検討されているが、高等学校の教育にどのような影響を与えるかなど、予想される課題に対して早期に具体的な検討を行う必要がある。

これらの提言に対して、各委員からの「学校力の強化」を目指した学校経営の在り方に関する意見を集約し、全国の高等学校の校長に発信するとともに、全国高等学校長協会として、様々な機会に反映させていきたい。

本調査と各都道府県の実践事例が、こうした「学校力の強化」を目指した取組の一助となれば幸いである。末尾ながらアンケートにご回答いただき、実践事例をご提供していただいたことに感謝申し上げる次第である。